

協働評価シート

事業名	「衣類のゆくえ」～燃やさず資源化で地球温暖化を防止しましょう～		実施年度	平成22年度
部局	環境部	課所	ごみ減量課	
団体等の名称	新居浜衣料リサイクル研究会			
評価項目		評価者	評価	左の評価の説明
相互理解	それぞれの特 性や立場を 理解し合 えたか	団体等	B	市からの金銭的援助により、必要な事業を円滑に実施することができた。
		市	B	新居浜衣料リサイクル研究会への金銭的援助は行えた。
		相互協議 結果		お互いの立場は理解できた。
対等	双方が対 等の立場 に立って いたか	団体等	C	市外ということもあり、直接ではなく、電話やメールを使用しての協議となり細かなニュアンスが伝わらなかった。
		市	C	当初に協議を行ったのみで、協議を充分に行えていない。
		相互協議 結果		協議時間が少なく意思疎通を図ることができなかった。
自主	市民の自 動的な活 動が尊重 されたか	団体等	B	市が受付窓口となったことで市民の信頼性が高まり、円滑にバス研修が実施できた。
		市	B	衣類回収、バス研修の広報等により、団体活動への支援ができた。
		相互協議 結果		衣類回収拠点については、受け入れ先、協働事業終了後の実施方法の問題もあり、拡大が進まなかった。
自立	市民の自 立化を阻 害しなか ったか	団体等	B	市民に対しては、事業の実施により、「衣類の資源化」を選択肢の一つとして加えることができた。
		市	C	他市での活動が主となっており、新居浜市での団体活動の推進を図ることができなかった。
		相互協議 結果		資源ごみ集団回収団体等の増加につながるよう、引き続き啓発等の取り組みが必要である。
目的共有	双方が協 働目的を 共有でき たか	団体等	B	「衣類の資源化」というわかりやすい目的であったため、目的の共有がしやすかった。
		市	B	協議時間は不足したが、目的の共有はできた。
		相互協議 結果		協議時間は不足したが、目的の共有はできた。

情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	C	協議時間が少なく、情報の共有が充分行えなかった。特に直接のやり取りが行えなかった。
			市	C	協議時間が少なく、情報の共有が充分行えなかった。
			相互協議結果		協議時間が少なく、情報の共有が充分行えなかった。
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A	市役所ロビーに「衣類の回収ボックス」があること自体が市民への大きな広報となった。
			市	A	市政だより、市ホームページで衣類回収状況をその都度公開し、市役所、産直市での衣類回収が浸透した。
			相互協議結果		協働事業により衣類リユース、リサイクル活動を推進していることを広報し、市民へもその活動が浸透したと考えている。
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	B	行政の「信用力」、団体の「実行力」と互いの得意分野での力が活かされた。
			市	B	衣類のリユース、リサイクルについて浸透してきたが、団体が他市で活動しているため協働効果は少ない。
			相互協議結果		衣類リサイクルを学ぶバス研修、ロビー展等は、団体のノウハウを活かされ、市との協働は効果的であった。
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたのか、		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	A	事業終了後も引き続き、市役所ロビーの「回収ボックス」は残り、回収事業が継続することは意義深い。
			市	A	衣類のリユース、リサイクルの浸透を図ることができた。
			相互協議結果		市民が多数訪れる市役所ロビーでの衣類回収と並行して、バス研修、ロビー展等を実施したことで、市民の関心が高まった。

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか等（自由記述）

団体等	団体単独では浸透しない「衣類を燃やさず、地球温暖化を防止する」という活動が、市との協働により、信用性や広報性が増し、多くの市民の共感を得たことで、今後の資源化につながるものになった。
市	「衣類を燃やさず、地球温暖化を防止する」という目的については、市民が多数訪れる市役所ロビーにおいて衣類回収を実施したことにより、市民の関心が高まったと考えている。
相互協議結果	この取り組みが、資源ごみ集団回収での古布の取り扱い増加につながるように、啓発等の取り組みが必要である。